



令和6年度「少年の主張弁論大会」

7月6日(土)に体育文化会館コミュニティーセンターにおいて、「佐世保市少年の主張大会」が実施されました。今年度の大会運営スタッフは中部ブロックからの選出ということで、本校からは牟田桜雪さんが他校の生徒と一緒に大会運営を終日手伝ってくれました。

本校代表は、3年5組の加藤そらさんでした。「響く」という演題で吹奏楽部に入部したきっかけや練習をしていく中で学んだこと、そして、これからの決意について述べました。

本番はとても緊張したと思いますが、国語科の宮本先生からのアドバイスなどを念頭に置きながら、一言一言丁寧に述べて、とても立派な発表でした。会場からも大きな拍手をいただきました。今回の発表はそらさんにとって、とてもいい経験になったのではないのでしょうか。7月末に実施される吹奏楽コンクールでは「61の思いを束ねる」演奏をしてきてください。以下に発表内容を紹介します。

「響く」 3年 加藤 そら

二年前、これから始まる中学校生活に期待と不安を抱えながら、体育館で部活動紹介を見ていた私。「次は吹奏楽部の紹介です。吹奏楽部の皆さん、よろしくお願いします。」…「は



い！」司会進行のアナウンスに続き体育館中に響き渡るととても明るくて、元気な声。そして始まった演奏…。全身に鳥肌が立つほどの感動。今自分がどこにいて何をしているのか、忘れてしまうほど聴き入っていました。次から次に紡がれるメロディーに、そして楽しそうに演奏する先輩方の姿に魅了され、「吹奏楽部に入部する！」即決したことが昨日のここのようによみがえってきます。

入部したての頃は右も左もわからず、ついていくことに必死で、音楽の素晴らしさ、みんなで演奏することの意味なんて考える余裕すらありませんでした。しかし、先生方や先輩方の熱心なご指導のおかげで、本当の音楽の楽しさが少しずつですがわかるようになりました。そればかりでなく、聴いている人たちの楽しそうな姿を見るにつけ、「私たちは素敵な贈り物を届けているのかもしれない。」ということに気づき、これまで以上に練習に励み、もっと多くの人たちに思いを届けたいと思うようになりました。



先輩方が引退され、私たちが部をまとめ、リードしていかなければならない時期が来た去年のある日。「次期部長は加藤さん、あなたにお願いしたいと思います。」先生の一言に「部長として頑張ろう！」と前向きな気持ちになるところか、「私でいいのかなあ…」「他にもっとふさわしい人はいるのに…」と、不安な日々が続きました。1、2年生合わせて34名。私のアドバイスの声も届かず、みんなそれぞれに違う方向を見ているように思えて、自信を失いかけていました。そんな時、顧問の先生がアドバイスをくれました。「『～して』だけではだめ。『～だから～してください』と試してみたら？」確かにそうです。私自身もなぜそうするのか、その先が読めると動きやすかったはず。実際、言い方を少し変えただけで効率よく動く集団へと変わっていったのです。

新年度となった今年の部員数は61名。大野中で一番の部員数を誇る部となりました。61名もの部員をまとめる部長である私ですが、リーダーらしいリーダーだとは一度も思ったことはありません。どちらかといえば「天然だね」と友達からはよく言われます。そういうとよく聞こえますが、以前の私はどちらかといえばマイペース。悪くいえば自分さえよければいい、という考えで行動することが多かったと思います。そんな私を変えてくれたのです。

音楽が、吹奏楽部が、そして大切な仲間たちが。自分は独りぼっちじゃない。音楽という大切な贈り物を届けるという一つの目標をもつということ、ぶれない軸をもってさえいれば大丈夫！

そんな私たちも、もうすぐ最後のコンクールの舞台に立つこととなります。金賞が欲しい、県大会に行きたい、今までお世話になった方々に、感謝の気持ちを伝えたい。

でも、私の思いは一つ。部活動紹介のときに私の心に響いた音色。そのおかげで今の私があります。そんな私の思いを聴く人の心に響かせたい。61の思いを束ねて…。

